

事務事業名	全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会参画事業及び負担金納入事業				☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部		所属課	福祉課
施策名	計画 17	人権が尊重される社会づくり			所属係	社会福祉班		課長名	古武城 卓
基本事業名	体系 60	人権尊重についての理解の促進			担当者名	斉藤和広		電話番号 (内線)	096-242-1149 2137
予算科目	会計 01	款 03	項 03	目 01	事業 42	特別旅費、負担金		法令根拠	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 昭和48 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 全国のハンセン病療養所が所在する市町村で構成された協議会であり、協議会に参画することにより療養所が抱える諸問題を協議し情報交換を行う。平成21年度に合志市での総会開催。 (業務の内容) ①事務局(東村山市)から総会の開催通知を受理②市長、議会議員、健康福祉部長へ通知を回覧し、旅費を計上する③航空機等の交通機関及び宿泊先の申込みを行う④総会資料を回覧、保管する⑤協議会への負担金の請求書受理⑥支払手続を行う (予算の内訳) 特別旅費 負担金						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費	人件費計 (B)	0
							人件費	トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

総会会場までの旅費の計上、支払を行った。協議会負担金を支払った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度同様

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

- ①合志市長
②合志市議長
③健康福祉部長
④全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ①本協議会においてハンセン病療養所所在市町村に関する諸問題を協議し、その問題解決を図る。
②協議会へ負担金を支払うことにより、同協議会の運営を円滑なものにする。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

- ・療養所入所者の福祉の向上を図る。
・合志市民に有効なハンセン病啓発資料及び情報の収集にあたる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 総会開催回数	回
イ 負担金納入回数	回
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 総会参加者数	人
イ 担当職員数	人
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 総会における議題の議決度	%
イ 情報を入手できた件数	件
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 安心して暮らしている入所者の数	人
イ 要望書受付数	件
ウ 収集資料数	件

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円			157	109	120	220	120
			事業費計 (A)	千円	0	0	157	109	120	220	120
	人件費		正規職員従事人数	人			2	2	2	5	2
			延べ業務時間	時間			35	35	35	80	35
			人件費計 (B)	千円	0	0	139	139	139	318	139
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	296	248	259	538	259
活動指標	アイウ	回				1	1			1	
		回				1	1			1	
対象指標	アイウ	人				3	3	3	5	10	
		人				1	1	1	1	2	
成果指標	アイウ	%				100	100	100	100	100	
		件				1	1	1	2	1	
上位成果指標	アイウ	人				456	441	426	411	396	
		件				1	1	1	1	1	
		件				5	5	5	8	5	

合志市

事務事業名	全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会参画事業及び負担金納入事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	-----------------------------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和48年に全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会が発足と同時に開始

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

平成8年4月1日「らい予防法の廃止に関する法律」の施行に伴い、入所者への偏見が無くなる事が期待されたが、平成15年熊本県黒川温泉にて入所者の宿泊を拒否する事件が発生し、その対応に恵楓園入所者に対し心もとない誹謗中傷の手紙や電話が相次いだ。入所者への偏見は根強く残っており、高齢化を迎えた入所者への誠意ある対応と市民への啓発を継続的に実施する必要がある。
平成19年度に中山節夫監督作品「新・あつい壁」上映開始予定。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・菊池恵楓園入所者自治会より、「H18.6月現在入所者の平均年齢は76.8歳(全国は78.2歳)と高齢化しており、職員数を減らさないで欲しい。入所者は心細いので、最後まで国にみていただきたい。」等の要望があり、協議会において所在市町村の意思の統一を求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・協議会に参画することにより、療養所所在市町村が抱える諸問題について協議してゆくことが、入所者の福祉の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・ハンセン病療養所は全国に12箇所あり、その1つが合志市にある。療養所を所管する市町村の啓発等における役割は大きく、入所者の期待も大きい。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ①総会への参加は達成されている ②要請書に対する解決度を上げる努力をする
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 療養所入所者数は減少してきているが、高齢化により職員の必要性は増加している。今後は療養所そのものの活用も視野に入れなければならない。療養所入所者と療養所の今後について、協議会一体となって諸問題に取り組む必要がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ハンセン病に関する啓発事業は人権教育啓発課で行っており、連携ができると考える
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ハンセン病療養所の所在市としての役割は大きく、削減は出来ない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 開催地までの旅費計算に時間を要するため、業者等に旅費の計算を委託することにより時間の削減は可能と考える
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会を円滑に行ってもらうための参画であり、参画することで合志市民に有効な情報を早くに得ることができるので公平・公正である。

合志市

事務事業名	全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会参画事業及び負担金納入事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	-----------------------------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 <table style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">① 目的妥当性</td> <td style="width:30%;">☒ 適切</td> <td style="width:30%;">☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ハンセン病に関する諸問題に対する解決策は継続と国の方針であることから、協議会で連携をとり問題解決に努める必要がある。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 協議会での情報を人権啓発課と共有することにより、より有効なハンセン病療養所及び入所者の福祉の向上へつなげると考える。		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 療養所入所者の高齢化は進んでおり、入所者は最後の一人まで国に責任を取ってもらいたいと要望されている。入所者の福祉の向上と療養所の活用方法が今後の課題である																							

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">① 目的妥当性</td> <td style="width:30%;">☐ 適切</td> <td style="width:30%;">☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由										
① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(6) その他2次評価会議で指摘された事項																							